

小川町河川観察会からの 報告です。

小川町 柳田 智

「河川観察会」は こうして立ち上がった

今から9年ほど前、小川町で住民本位の民主的な町政が誕生しました。就任当初、町長の増田幸次さんは、住民主導で「小川町環境基本計画」を策定することを提案しました。これに応えて、公募による41名の町民が「町民協議会」に集まり、100回に及ぶ会議を経て策定されたものが「小川町環境基本計画」です。

この計画の第一が「河川く多様なのちがあふれる川本来の姿を大切に作る町づくり」であり、これを担ったのが「河川部会」の面々でした。この計画が策定された時、「作ったらお終いではないけない。これからが大切だ。」という思いがどの部会にもありました。基本理念であ

る・まちづくりは住民が主人公・豊かな自然の中で子ども達を育む・環境は共有財産である―等を実践し継続するために何かできないだろうか、「河川部会」に集まった私たちは、行政当局（小川町環境衛生課（当時））と連携しながら、この「河川観察会」を立ち上げ、町民と一緒に良好な河川環境を次の世代に伝えていこうと、考えました。こうして第一回河川観察会が2005年4月17日に実施されました。

こんな活動を してきました

以来5年間、春・秋の二回ずつ、昨年9月27日で10回の観察会が行われていきます。小川町の町名からもわかるように我が小川町は河川に囲まれています。観察

場所には事欠きません。今まで「槻川（つきがわ）」「兜川（かぶとがわ）」「金嶽川（かなたけがわ）」という町を流れる3本の川の河畔で観察会を行ってきました。広報で町民に参加を呼び掛け、毎回20〜40名の参加を得ています。午前9時から12時までほぼ3時間、部会のメンバーが班長になって、老若男女、ワイワイガヤガヤと引率します。

観察のテーマは「川の生き物を調べてみよう」「自然豊かな健康な川とはどんな川か」「河原の木々や木の実」「魚の気持ち」などです。元高校教師や釣り具屋の店長、地元の農家の主人などが講師になって、少し話を聞いて、後は川に入っ

小川町の自然を孫子の 代まで伝えていきたい

はあつという間に過ぎてしまいます。皆さんは「トビゲラ」「ヘビトンボ」などという水生昆虫を知っていますか。「沢ガニ」や「プラナリア」や「トウキョウサンショウウオ」を手に取ったことがありますか。「オイカワ」という魚は春になると独特の鮮やかな婚姻色に彩られるのを、また清流には「かじか」という

魚がひっそりと生息しているのを見たことはありますか。・・・ほとんどの方の答は「NO」でしょう。蛍の生息しているせせらぎには「川蜷（かわにな）」という巻貝が多く見られます。

三面張りのコンクリートにおおわれていない川は、今でも地域の人々の冷蔵庫や食器洗いの場に使われています。そこを「川だな」と呼びます。見上げると河畔には「くるみ」の大木が連なり、秋には堅い実がコロコロと転がっています。花期（6～7月）になると「またたび」の葉先が白化（白くなる）して、まるで雪が降ったように河畔を覆うのはとても風情があります。

毎回「水質」調査

そんな自然がいつばいの小川町の河川を満喫できるのがこの「観察会」の魅力です。しかし、所によっては生活雑排水や川砂利採取の影響で、著しく汚染されている場所もあります。毎回「水質パックテスト」を実施して、生物化学的酸素要求量(BOD)や水素イオン指数(pH)アンモニウムイオン濃度等を測定しています。地域の人によるとそれでも一頃よりも川が綺麗になったそうです。沢ガニ

が棲み、蛍の飛び交うこの小川町の自然を孫子の代まで伝えていきたい。・これがみんなの願いです。

今後の活動予定など詳しいことは小川町役場（電話72-1221）環境保全課までお問い合わせください。誰でも参加できます。多数の方の参加をお待ちしています。

〈参加者のアンケートから〉

- ・ 近くの川でいろいろな生き物がいて自然を大切にしなければならぬと感じた。
- ・ 川の話以外に様々な動植物の話が聞け、大変勉強になりました。又、機会がありましたらぜひ参加したいと思えます。
- ・ わたしはカニやタニシなどをつかまえました。あと黒くて小さくてぬるぬるしたものつかまえました。
- ・ いろいろな魚の種類やなまえをおしえてくれてありがとうございます。
- ・ 親子ともとても満足しました。お天気もちょうど良く川の中に入った子どもはうれしそうでした。ありがとうございました。

・ やや曇り気味の天気でしたが、秋らしい風が時折吹いてきました。子ども達が川辺で夢中になって遊んでいる様はいつ見ても良いものです。この自然を後々までも大切にしたいです。

・ 水辺の観察会、子どももたのしみになっています。また、次回も参加したいです。

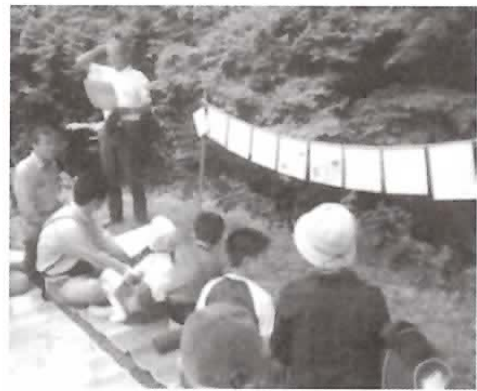
・ いつも見なれている槻川ですが、川の中の生物や、その生物が生存するために必要な要素や過程など奥深い事を知ることができました。とても有意義な体験ができました。機会があったらまた参加してみたいです。

・ 講師の話も分りやすくよかったです。思いました。

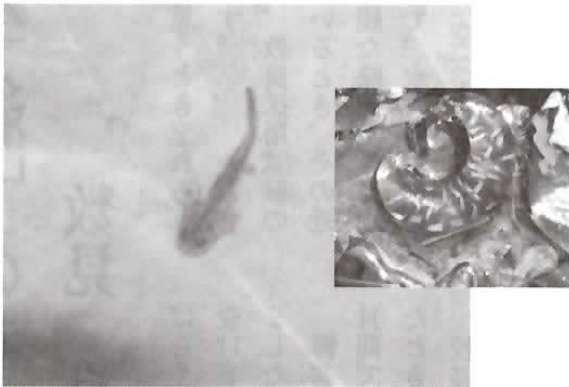
・ いつも楽しい観察会ありがとうございます。川の水の量が少なくなっているのにおどろきました。常に一定量の水の量が必要なのは、生き物にとって大切です。私達にとって水の量を増やすことはむづかしいがとのこと。川だけでなく山も守っていく必要がありますね。



かじかの幼魚



講師の先生のお話を聞きます



トウキョウサンショウウオの幼生と卵

川に入っているいろいろの採集です



生活排水で川が汚れます



水の濁りを測ります



またたびの葉の白化



水質パックテスト